

## UHF 帯 RFID リーダ・ライタ CB ファミリ 制御例

UHF 帯 RFID リーダ・ライタ CB ファミリ SU モデル (UPx-1000/UPx-250) を使用した制御例を示します。

### ①各アンテナごとに送信出力を設定(メッセージ区分:0xAE)

■コマンド例:53 00 00 00 AE 00 03 00 20 00 00 00 00 00 00 01 07 D0 FC (アンテナ1に 20.0dBm を設定)

開始	固定	メッセージ区分	オプション	データ部 レングス	固定	年月日時分秒 ミリ秒	データ部	BCC
53	000000	AE	00	0300	20	00 00 00 00 00 00 00	(01) [07 D0]	FC

() 部にアンテナ番号を設定(1~16)

[ ]部に送信出力値を設定(dBm を 100 倍した値)(ビックエンディアン)  
20.0dBm のときは 2000(0x07D0)

■応答例:53 00 00 00 AE 00 00 00 20 00 00 00 00 00 00 00 21

### ②各アンテナごとにセッションを設定(メッセージ区分:0xB0)

■コマンド例:53 00 00 00 B0 00 02 00 20 00 00 00 00 00 00 01 A0 C6 (アンテナ1に S1 を設定)

開始	固定	メッセージ区分	オプション	データ部 レングス	固定	年月日時分秒 ミリ秒	データ部	BCC
53	000000	B0	00	0200	20	00 00 00 00 00 00 00	(01) [A0]	C6

() 部にアンテナ番号を設定(1~16)

[ ]部にセッション値を設定

S0:0x80、S1:0xA0、S2:0xC0、S3:0xE0

■応答例:53 00 00 00 B0 00 00 00 20 00 00 00 00 00 00 00 23

### ③各アンテナごとの送信出力とセッションを EEPROM に保存(メッセージ区分:0xE0)

■コマンド例:53 00 00 00 E0 00 01 00 20 00 00 00 00 00 00 01 55

開始	固定	メッセージ区分	オプション	データ部 レングス	固定	年月日時分秒 ミリ秒	データ部	BCC
53	000000	E0	00	0100	20	00 00 00 00 00 00 00	[01]	55

[ ]部に 0x01 を設定

■応答例:53 00 00 00 E0 00 00 00 20 00 00 00 00 00 00 00 53

#### << 使用例1 >>

- ①と②を 使用するアンテナ分実行します。
- タグ読取り(メッセージ区分:0x20)を実行します。

#### << 使用例2 >>

一回だけ①と②を使用するアンテナ分実行し、その後③を実行します。  
すると設定値がリーダー・ライタの EEPROM に保存されますので、次回からは①と②を実行しないで  
タグ読取り(メッセージ区分:0x20)だけを実行します。

※ 詳細は ART Finex リーダ・ライタプロトコル仕様書 をご参照ください。